

類義語「いきなり」「突然」「急に」の使い分け： コーパスから見たコロケーションの特徴

趙, 聖花
中国大連理工大学 : 准教授

金, 珽実
九州大学留学生センター : 訪問研究員

郭, 俊海
九州大学留学生センター : 教授

<https://doi.org/10.15017/4783536>

出版情報 : 九州大学留学生センター紀要. 27, pp.21-28, 2019-03. 九州大学留学生センター
バージョン :
権利関係 :



類義語「いきなり」「突然」「急に」の使い分け

— コーパスから見たコロケーションの特徴 —

The Differences of Japanese Synonyms of ‘ikinari’, ‘totuzen’ and ‘kyuuni’: A Corpus-based Analysis of the Characteristics of the Collocations.

趙 聖 花*

金 斑 実**

郭 俊 海***

〈要旨〉

『NLB』コーパスを用いて類義語である「いきなり」「突然」「急に」のコロケーションの情報を抽出して異同について調査を行った。どのような語と共起することが多いか、その頻度、MIスコア、LD係数でそれぞれのコロケーションの特徴をまとめ、類義語の異同の習得に一助となることを目的とする。

キーワード：コーパス、コロケーション、いきなり、突然、急に

1. はじめに

本稿は、日本語学習者のため、類義語である「いきなり」「突然」「急に」のコロケーションの情報を、コーパスを用いて抽出し、使い分けできるようにすることを目的とする。この三語は辞書の意味だけではその使い分けはわかりにくい。そこで、本稿では、『NLB』コーパスを用いて実際にどのような語と共起することが多いかその頻度、MIスコア、LD係数でそれぞれのコロケーションの特徴を分析することにより、その異動を明らかにする。

2. 先行研究と問題点

近年、コーパスに基づいた日本語の研究が注目されている。その中にコロケーションの重要性が多く指摘され（田野村2009、大曾ら2003、中溝ら2011、坂井ら2011、王・曹2012、趙2011）、コロケーションの情報をどのように日本語学習者に提示すべきかについて述べている。

田野村（2009）は主に、コロケーションの情報をコーパスを用いて抽出する方法について紹介した。大曾（2003）は名古屋大学の会話コー

*中国大連理工大学准教授

**九州大学留学生センター訪問研究員

***九州大学留学生センター教授

パスを用いて類義語である「みたいだ」「ようだ」の使用実態について紹介した。いずれも data-based approach という方法による研究である。中溝ら (2011)、坂井ら (2011) は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて類義語である「進歩」「向上」と「決心」「決意」「決断」のコロケーションの情報を調査した。これらについて形態素解析システムや係り受け解析器 CaboCha を用いた共起関係抽出プログラム、および Microsoft Excel を利用し、共起する語の抽出と共起頻度を算出した。data-based approach という方法による研究よりは経済的である。王・曹 (2012) は data-driven approach という方法によって、共起性が高い語彙の情報を統計し、類義語である動詞の一组を例に紹介した。コロケーションの情報を統計するのに MI スコア、T スコアを参考した。この方法は、言語使用中の新たな事実と特徴を見ることができる。しかし、この統計方法は研究者のいちいちの統計による分析が必要で、ある程度の統計学の知識がないと不可能である。趙 (2011) は、『CD 毎日新聞データ集』95～97年の3年分を調査データとし、1000例ずつ抽出し、各類義語と共起する動詞を意味分類した。しかし、新聞データの例は限られているので、調査結果は不十分であるし、本稿との共起特徴の現れ方と違う所も見られた。また、data-based approach という方法による研究は不経済的である。

2. 1. 『外国人のための基本語用例辞典』での記述 (文化庁1981)

- いきなり：前に何も知らせや準備をしないで、突然、急に (何かをする)。(p. 60)
- 突然：何の知らせもなく急に起こる様子。(p. 710)
- 急：(そうなると思っていたときに)

非常に早くそうなること。またその様子。とつぜん。／「きゅうに」の形で副詞的に使うことが多い。(p. 266)

この辞書での記述を見ると、「いきなり」の説明に「突然、急に」を使い、「突然」の説明に「急に」を使い、「急」の説明に「突然」を使っているのがわかる。これだけの説明では三語の使い分けは難しい。

2. 2. 『ことばの意味 3 辞書に書いていないこと』での記述 (国広1982)

- いきなり：ある事態が成立する前に一般的に想定される状況を経ずにその事態が成立する。(p. 155)
- 突然：出来事、人間の意図行為、自然現象などに使える。瞬間的にある事態が成立するという特徴は、トツゼンに一番よく現れている。(p. 159)

国広 (1982) は以下の三つの例を挙げて、「突然」の使い方を説明した。

- (1) 父は自動車事故でトツゼン死にしました。(突発事件に使える)
- (2) 友人は私をトツゼン裏切ったのだ。(人間の意図行為に使える)
- (3) トツゼン地震が起こった。(自然現象などに使える)

- 急に：ある出来事が何の前触れもなく、あるいは予想したよりはるかに短時間で実現することを指す。ある事態の生じ方が予想外であり、その事態と前の事態との格差が通常より大きい。(pp. 148-149)

国広 (1982) は以下の三つの例を挙げて、「急に」の使い方を説明した。

- (4) そんなにキュウニ言われても困ります。
(事態の生じ方が予想外である場合に使う)
- (5) ひと雨降ったら花のつぼみがキュウニふくらんだ。(予想したよりはるかに短時間で実現する或いは変化した場合に使う)
- (6) 新幹線の駅ができることが決まったら、付近の地価がキュウニ上がった。(前の事態との格差が通常より大きい場合に使う)

従来の辞書よりは分かりやすいが、説明に使われる例文が少ないため、日本語学習者にとってはやはり使い分けが難しい。

2. 3. 『基礎日本語』(初版)での記述(森田 1977)

- いきなり：ある状況の流れを経ずに、突然ある行為を起こすこと。行為の順序を無視して、急に状況の流れとは無関係な他の事柄に突入するため、観察者や受け手にとっては、予想もつかぬ事柄を相手が突然起こしたと映る。本来は意志的動作の動詞に係る。(p. 60)
- 突然：行為・作用・現象などが前触れなしに急に起こるさまに用いる。状態の激変に用いられる。「いきなり」と違って「予告なしに行う」の意識はない。自然現象、無意識行為、意識的な行為、いずれも可能で、ある瞬間に成立する動作・作用・現象に使う。(p. 61)
- 急に：時間的幅の中で進行するあわただしい変化を表す。状態が僅かの時間のうちにプラスかマイナス状態へと速やかに変わっていく場合に使う。(p. 62)

国広(1982)、森田(1977)は、成立する事態とその前の事態との関係でその違いを述べているが、説明に使われた例文が限られているため日本語学習者にとっては分かりにくい。『NLB』コーパスは従来の研究の難題を解決するのに役立つ。本稿では、『NLB』コーパスを用いて類義語である「いきなり」「突然」「急に」のコロケーションの特徴を分析し、学習者のこのような類義語の異同の習得に一助となることを目指したい。

3. コーパス調査

3. 1. 使用するコーパス

本研究で使用するコーパスはNINJAL-LWP for BCCWJ(以下、NLB)は、国立国語研究所(以下、国語研)が構築した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)を検索するために、国語研とLago言語研究所が共同開発したオンライン検索システムである。NLB ver.1.20では、BCCWJのDVD版公開データ(2011)の文字ベースXMLの変長データを使用している。NLBでは、コロケーションや文法的振る舞いの情報を抽出するために、BCCWJのデータにアノテーションを付与した上で解析している。アノテーションに使用している解析器・辞書は以下の通りである。形態素解析 MeCab 0.99 + IPA 辞書 2.7.0で、形態素解析用のIPA辞書は、代表表記の情報を含まないため、独自に拡張して代表表記に対応させている。係り受け解析 CaboCha 0.64で、コーパス総語数は104,805,763である。

3. 2. コロケーション研究に用いられる統計方法

3. 2. 1. 共起頻度

頻度とはそもそもすべて特定の母集団の中で決定されるものである。たとえば漠然と the の頻度を言うことはできない。1 億語のコーパスの中での the の頻度、100万語のコーパスの中での the の頻度というように、すべての頻度は母集団の全体に占める比率として解釈されるのである。このため共起頻度・中心語頻度・共起語頻度と同時に、コーパス総語数を見る必要が生じるのである（石川2008）。

3. 2. 2. MI スコア

相互情報量はある語が共起相手の語の情報をどの程度持っているかを示す指標である。その語が出れば、共起相手は自動的に決まる、というような場合に相互情報量は高くなる。相互情報量は概念的には、2 語の頻度の実測値と期待値の比を対数に誘導したもので、式は下記のようになる（石川2008）。

$$I = \log_2 \frac{\text{共起頻度} \times \text{コーパス総語数}}{\text{中心語頻度} \times \text{共起語頻度}}$$

3. 2. 3. ダイス係数

ダイス係数は情報理論やウェブサイトからの関連語自動抽出のアルゴリズムなどとしても広く使用されている。ダイス係数の計算にはコーパス総語数は必要ではなく、中心語頻度と共起語頻度の関係だけで2語のコロケーション強度を計測してゆく（『NLB』ユーザマニュアル1.20:22）。ダイス係数は共起頻度を中心語頻度と共起語頻度の和で割って2倍した値で、式は次のようになる（石川2008）。

$$D = 2 \times \frac{\text{共起頻度}}{\text{中心語頻度} + \text{共起語頻度}}$$

式からわかるようにダイス係数は単純ではあるが、有用性・妥当性の高い指標で、特徴語検出における9種類の統計値の妥当性を比較した中條・内山（2004）によれば、ダイス係数の精度がもっとも良かったことが報告されている（石川2008）。

3. 3. 後続する動詞との共起情報

『NLB』コーパスを用いて検索した結果を表1～表3に示す。後続する動詞の頻度の中で、上位25語をそれぞれ抽出し、MIスコアとLD係数も考えてコロケーションの特徴を見る。

3. 4. 後続する動詞の特徴

3. 4. 1. 共通点

以上の三つの表から分かるように、「いきなり＋動詞」（764種類）、「突然＋動詞」（1186種類）、「急に＋動詞」（3881種類）である。「急に＋動詞」が圧倒的に多い。「急に」と共起する動詞は、「なる」（頻度361）が上位1位で、表1と表2には現れなかった。「突然」と共起する動詞は、「現れる」（頻度87）が上位1位であるのに対して、「いきなり」との共起頻度はわずか15で、表3の「急に」との共起情報には現れなかった。「いきなり」と共起する動詞は、「言う」（頻度29）が上位1位であるのがわかる。

三つの類義語と共起する動詞は「来る」「出る」「言う」が共通的に現れた。その特徴を以下の表4に示す。

3. 4. 2. 相違点

表1～表3のコロケーション情報から分かるように、MI $\geq$ 3、LD $\geq$ 5の共起する動詞があまりにも多い。MI $\geq$ 3、LD $\geq$ 5の動詞を考察対象とした場合、三語のコロケーションの特徴が見られにくいので、本稿ではMI $\geq$ 5、LD $\geq$ 5の共起する

表1 「いきなり+動詞」(764種類)(上位25語)

順番	動詞	頻度	MI	LD	順番	動詞	頻度	MI	LD
1	言う	29	3.88	1.8	14	飛び込む	6	8.89	6.29
2	やる	16	5.18	3.09	15	開く	6	5.62	3.48
3	現れる	15	7.6	5.42	16	話しかける	6	8.89	6.29
4	立ち上がる	15	9.07	6.73	17	立つ	6	5.61	3.47
5	行く	15	5.15	3.06	18	止まる	6	6.68	4.47
6	来る	14	5.27	3.17	19	告白する	6	9.65	6.77
7	出る	11	4.41	2.32	20	見る	5	2.35	0.26
8	殴る	11	9.78	7.18	21	持つ	5	3.2	1.1
9	聞く	10	4.72	2.62	22	抱きつく	5	10.83	7.16
10	怒る	8	7.99	5.68	23	嫌う	5	7.88	5.47
11	切り出す	7	10.5	7.32	24	入る	5	3.66	1.56
12	切る	7	6.28	4.12	25	飛び出す	4	7.91	5.42
13	走り出す	7	10.8	7.44					

表2 「突然+動詞」(1186種類)(上位25語)

順番	動詞	頻度	MI	LD	順番	動詞	頻度	MI	LD
1	現れる	87	9.5	7.9	14	泣く	14	7.75	6.04
2	言う	31	3.34	1.89	15	いる	13	8.37	6.51
3	やる	23	5.07	3.6	16	訪ねる	13	8.75	6.78
4	消える	23	8.18	6.52	17	出る	12	3.9	2.44
5	起こる	22	7.48	5.88	18	起きる	10	6.6	4.98
6	やってくる	19	8.86	7.01	19	始まる	10	6.07	4.5
7	来る	18	5.0	3.52	20	出現する	10	9.04	6.83
8	思い出す	17	7.68	6.02	21	ある	9	0.8	-0.65
9	死する	17	12.25	8.54	22	帰る	9	5.4	3.87
10	訪れる	17	8.3	6.54	23	訪問する	9	9.19	6.85
11	死ぬ	16	6.63	5.08	24	飛び出す	8	8.28	6.24
12	襲う	14	8.77	6.82	25	降る	8	8.23	6.2
13	立ち上がる	14	8.34	6.51					

動詞を調査対象とする。一番共起しやすい動詞を抽出してから、森田(1977)の『基礎日本語』での三語の記述を見ると理解しやすい。

表1「いきなり+動詞」の共起情報MIスコアとLD係数から分かるように、「いきなり」と一番共起しやすい動詞は「現れる」「立ち上

る」「殴る」「怒る」「切り出す」「走り出す」「飛び込む」「話しかける」「告白する」「抱きつく」「嫌う」「飛び出す」などが現れた。

「いきなり」と共起する動詞は「観察者や受け手にとっては、予想もつかぬ事柄を相手が突然起こしたと映る。意志的動作の動詞に係る。」(森田1977)。

表3 「急に+動詞」(3881種類)(上位25語)

順番	動詞	頻度	MI	LD	順番	動詞	頻度	MI	LD
1	なる	361	4.4	4.66	14	できる	35	2.35	2.59
2	来る	222	13.63	10.7	15	くる	31	4.07	4.23
3	出す	109	6.53	6.63	16	行く	27	3.66	3.83
4	しまう	95	10.59	9.13	17	下がる	26	7.5	6.77
5	する	87	2.04	2.3	18	なくなる	25	6.32	6.04
6	出る	77	4.88	5.07	19	落ちる	23	6.16	5.9
7	変わる	73	6.57	6.59	20	開ける	22	12.37	7.5
8	始める	63	7.43	7.22	21	減る	22	6.9	6.34
9	いる	51	8.63	7.82	22	入る	22	3.45	3.62
10	変える	43	6.68	6.52	23	いく	21	4.91	4.91
11	増える	43	6.81	6.62	24	ちゃう	21	5.21	5.15
12	言う	42	2.07	2.32	25	ある	20	0.24	0.49
13	思い出す	37	7.09	6.75					

表4 後続する同じ動詞

動詞	いきなり+動詞 (764種類)	突然+動詞 (1186種類)	急に+動詞 (3881種類)
来る	14頻度	18頻度	222頻度
出る	11頻度	12頻度	77頻度
言う	29頻度	31頻度	42頻度

表2「突然+動詞」の共起情報 MI スコアと LD 係数から分かるように、「突然」と一番共起しやすい動詞は「現れる」「消える」「起こる」「やってくる」「思い出す」「死する」「訪れる」「死ぬ」「襲う」「立ち上がる」「泣く」「いる」「訪ねる」「出現する」「訪問する」「飛び出す」「降る」などが現れた。

「突然」と共起する動詞は「行為・作用・現象」などが前触れなしに急に起こるさまに用いる。状態の激変に用いられる。いきなりと違って予告なしに行うの意識はない。自然現象、無意識行為、意識的な行為、いずれも可能で、ある瞬間に成立する動作・作用・現象に使う。(森田 1977)。

「突然死んだ」「突然襲う」は無意識行為、意識的な行為の結果の例で、「突然地震が起こった。」は自然現象の例である。意識的な行為は主に動き、移動、方向を表す事態に多く現れた。例えば、「やってくる」「訪れる」「立ち上がる」「訪ねる」「訪問する」「飛び出す」などである。無意識行為は視覚的感覚、現象などが前触れなしに急に起こるさまに用いる。例えば「突然」+「消える、起こる、死する、死ぬ」などである。

表3「急に+動詞」の共起情報 MI スコアと LD 係数から分かるように、「急に」と一番共起しやすい動詞は「来る」「出す」「しまう」「変わる」「始める」「いる」「変える」「増える」「思い出す」「下がる」「なくなる」「落ちる」「開ける

(ひらける)」「減る」「ちゃう」などが現れた。

「急に」と共起する動詞はほとんどが変化を表す動詞である。例えば、「変わる」「変える」「増える」「下がる」「なくなる」「落ちる」「開ける (ひらける)」「減る」「ちゃう」などが現れた。

「時間的幅の中で進行するあわただしい変化を表す。状態が僅かの時間のうちにプラスかマイナス状態へと速やかに変わっていく場合に使う。」(森田1977)。

4. おわりに

以上のような調査の結果から、「いきなり」「突然」「急に」それぞれのコロケーション情報としては、以下のような点を学習者に提示すべき内容と考え、試案として提案する。

三つの類義語と共起する動詞は「来る」「出る」「言う」が共通的に現れた。「急に」と共起する動詞は、「なる」が上位1位で、「突然」と共起する動詞は、「現れる」が上位1位で、「いきなり」と共起する動詞は、「言う」が上位1位であるのがわかる。また「急に+動詞」が圧倒的に多い。

「いきなり」と一番共起しやすい動詞は「現れる」「立ち上がる」「殴る」「怒る」「切り出す」「走り出す」「飛び込む」「話しかける」「告白する」「抱きつく」「嫌う」「飛び出す」などが現れた。具体的な動作の作用を表す事態に多く現れる。

「いきなり」と共起する動詞は「観察者や受け手にとっては、予想もつかぬ事柄を相手が突然起こしたと映る。意志的動作の動詞に係る。」(森田1977)。

「突然」と一番共起しやすい動詞は「現れる」「消える」「起こる」「やってくる」「思い出す」

「死する」「訪れる」「死ぬ」「襲う」「立ち上がる」「泣く」「いる」「訪ねる」「出現する」「訪問する」「飛び出す」「降る」などが現れた。

意識的な行為は主に動き、移動、方向を表す事態に多く現れた。例えば、「やってくる」「訪れる」「立ち上がる」「訪ねる」「訪問する」「飛び出す」などである。無意識行為は視覚的感覚、現象などが前触れなしに急に起こるさまに用いる。例えば「突然」+「消える、起こる、死する、死ぬ」などである。

「急に」と一番共起しやすい動詞は「来る」「出す」「しまう」「変わる」「始める」「いる」「変える」「増える」「思い出す」「下がる」「なくなる」「落ちる」「開ける (ひらける)」「減る」「ちゃう」などが現れた。「急に」と共起する動詞はほとんどが変化を表す動詞である。

参考文献

1. 石川慎一郎 (2008) 「コロケーションの強度をどう測るかーダイス係数、tスコア、相互情報量を中心としてー」言語処理学会14回大会チュートリアル資料, pp. 40-50
2. 王華偉・曹亞輝 (2012) 「日本語教学中基于語料庫的词语搭配研究ー以一组动词近义词为例」《解放军外国语学院学报》No.2, pp.71-75
3. 大曾美恵子・滝沢直宏 (2003) 「コーパスによる日本語教育の研究ーコロケーション及びその誤用を中心にー」『日本語学』No.22, pp. 234-244
4. 国広哲弥他 (1982) 『ことばの意味3 辞書に書いていないこと』東京：平凡社
5. 坂井美恵子・中溝朋子・金森由美 (2011) 「類義語『決心』『決意』『決断』の使い分けーコーパスから見たコロケーションの特徴ー」《跨文化交际中的日语教育研究》北京：高等教育出版社, pp.835-837
6. 田野村忠温 (2009) 「コーパスからのコロケーション情報抽出ー分析手法の検討とコロケーション辞典項目の試作ー」『阪大日本語研究』No.21, pp.21-41
7. 趙恩英 (2011) 「新聞データにおける類義語『いきなり』『急に』『突然』の相違についてー共起する動詞の意味分類からー」《跨文化交际中的日语教

- 育研究》北京：高等教育出版社，pp.626-627
8. 趙聖花・劉玉琴（2015）「コーパスに基づいたコロケーション分析－『素敵』『立派』『素晴らしい』を例に－」『徳島大学国際センター紀要2014年報』pp.24-30
 9. 中溝朋子・坂井美恵子（2011）「漢語名詞『進歩』と『向上』のコロケーションの異同について」『大学教育』Vol.8, pp. 88-95
 10. 中條清美・内山将夫（2004）「統計的指標を利用した特徴語抽出に関する研究」『関東甲信越英語教育学会紀要』No.18, pp. 99-108
 11. 日本国立国語研究所・Lago 言語研究所（2013）NINJAL-LWP for BCCWJ. [EB/OL].<http://nlb.ninjal.ac.jp/>.
 12. 文化庁（1981）『外国人のための基本語用例辞典』大蔵省印刷局
 13. 森田良行（1977）『基礎日本語』東京：角川書店